

大使館情報

2018年6月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢等（5月発表の経済指標）
- (2) 経済政策等
- (3) 中銀の金融政策等
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢（5月の出来事）

[内政]

- (1) テメル大統領就任2年の総括スピーチ
- (2) テメル大統領とバルボーザ元連邦最高裁長官の出馬辞退
- (3) テメル政権の支持率と大統領選候補者の支持率
- (4) トラック運転手スト
- (5) 労働省の組合登録不正事件

[外政]

- (1) 伯米関係：ペンス米副大統領の訪伯延期
- (2) コロル上院外交・国防委員長の訪朝
- (3) ヌネス外相のアジア歴訪
- (4) 中東情勢
- (5) ベネズエラ情勢

3. トピックス

- (1) 日・ブラジル外相会談
- (2) 河野外務大臣のサンパウロ訪問
- (3) “フィールドミュージアム”構想に関するプレスツアー（在マナウス総領事館）

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 文化イベント
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢等（5月発表の経済指標）

(ア) 中銀が週次で発表しているエコノミスト等への調査に基づくGDP成長率予測に関し、5月25日時点では、2018年のGDP成長率は2.37%で4週連続の下方修正、2019年のGDP成長率は3.00%とされた。また、2018年のインフレ率見通しは3.60%で2週連続の上方修正、2019年のインフレ率見通しは4.00%とされた。

(イ) ブラジル地理統計院（IBGE）が発表した2018年第1四半期（1～3月）のGDP成長率は、前年同期比+1.2%で4四半期連続のプラス、前期比+0.4%で5四半期連続のプラスを記録した。

(ウ) 3月の鉱工業生産指数は、前年同月比+1.3%で11か月連続のプラスを記録した一方、前月比では▲0.1%となり、2か月ぶりにマイナスに転じた。

(エ) 3月の小売売上高は、前年同月比+6.5%で12か月連続のプラスを記録したほか、前月比では+0.3%となり、2か月ぶりにプラスに転じた。

(オ) 全国の失業率（2～4月の移動平均）は12.9%となり、前回の公表値（1～3月の移動平均）から0.2%下落して4か月ぶりに改善した。

(カ) 4月の貿易収支は、輸出額は198.36億ドル（前年同月比+12.2%、前月比▲2.1%）、輸入額は137.90億ドル（前年同月比+28.7%、前月比▲0.1%）で、差引き60.45億ドル（前年同月比▲13.2%、前月比▲6.2%）となり、38か月連続で貿易黒字を記録した。

(キ) 4月の拡大消費者物価指数（IPCA）は単月で0.22%となり、前月の0.09%から上昇した。また、過去12か月累計では2.76%となり、政府のインフレ目標（4.5%±1.5%）の下限値を下回る水準で推移している。

(2) 経済政策等

(ア) 5月4日、テメル大統領はテレビ番組のインタビューに応じ、受給開始年齢の変更を含む年金制度改革は不可避であり、次期政権の発足当初にも承認されなければならないと語った。

(イ) 5月22日、グアルディア財務大臣は、トラック運転手によるディーゼル価格上昇に反対するストライキを受けて、ディーゼル燃料に課税される燃料税（CIDE）の徴収を停止するとした声明を発表した。

(ウ) 5月22日、テメル大統領は、本年10月の大統領選に出馬せず、メイレス前財務大臣の出馬を支持する旨発表した。

(エ) 5月24日、政府とトラック業界は、今後30日間にわたり燃料税（CIDE）の徴収停止とディーゼル燃料価格の10%引下げを条件に、ストライキを15日間停止することで合意に達したと発表した。

(3) 中銀の金融政策等

5月16日、中銀の金融政策委員会（Copom）は、政策金利（Selic）を年率6.50%に据え置くことを全会一致で決定した。なお、政策金利の据置き決定は13回合ぶり（過去12回連続で引下げ）となった。

(4) 為替市場

(ア) 5月のドル・レアル為替相場は、前月に引き続きドル高・レアル安が進行する展開となった。

(イ) 月の前半は、中銀による事実上のドル売り・レアル買い介入にも関わらず、世界的なドル買い・新興国通貨安の流れに加えて、大統領選の動向や景気回復の見通しに不透明感が広がったこと等を受けて、1ドル=3.6レアル台までレアル売りが急速に進行した。

(ウ) 月の後半は、米国の長期金利の上昇や隣国アルゼンチンの通貨下落等を受けてレアルは軟調に推移し、その後もトラック運転手によるディーゼル価格上昇に反対するストライキが引き起こした混乱が嫌気され、レアルは続落する展開となった。月末は1ドル=3.7239レアルで取引を終えた(前月比6.2%のドル高・レアル安)。

(5) 株式市場

(ア) 5月のブラジルの株式相場(Ibovespa指数)は、前半は堅調に推移したものの、後半は大きく値を落とす展開となった。

(イ) 月の前半は、新興国株全般の下落を受けて軟調にスタートしたものの、その後は利下げ観測の高まりを受けて値を戻す動きとなった。

(ウ) 月の後半は、中銀による予想外の金利据置き決定を受けて株価は大きく下落し、さらに21日から始まったトラック運転手によるディーゼル価格上昇に反対するストライキが实体经济に及ぼす影響が広がるにつれ、株価は続落する展開となった。月末の株価指数は76,753.62ポイントとなり、前月比▲10.9%の大幅な下落となった。

2. ブラジル政治情勢(5月の出来事)

【内政】

(1) テメル大統領就任2年の総括スピーチ

5月15日、同月12日に大統領就任2年(代行時代を含む)を迎えたテメル大統領は、閣僚や政府機関のトップを集めて過去2年間を総括するスピーチを行った。同大統領は、インフレや雇用指数の改善、利下げ、貿易黒字幅の更新、ペトロブラスの立て直し、歳出上限の導入、労働法改正などを挙げ功績をアピールした。他方、「2年でブラジルは元に戻った」というスローガンには、別の解釈の可能性から「2年でブラジルは後退した」との皮肉も巷でささやかれた。

(2) テメル大統領とバルボーザ元連邦最高裁長官の出馬辞退

5月8日、バルボーザ元連邦最高裁長官は個人的な都合により出馬を辞退することを発表。5月22日、テメル大統領もまた大統領選の出馬を断念し、メイレス前財務大臣の出馬を支持することを発表した。

(3) テメル政権の支持率と大統領選候補者の支持率

全国運輸連盟(CNT)が発表した世論調査(5月9日~12日実施、25州127市、2002人対象)によると、テメル政権の支持率は、良い4.3%、悪い71.2%、普通21.8%、分からない2.7%であった。

ルーラが不出馬の場合の大統領選各候補者の支持率は、ボルソナーロ(PSL)18.3%、シルヴァ

(REDE) 11.2%, ゴメス (PDT) 9%, アルクミン (PSDB) 5.3%, ディアス (PODEMOS) 3%, ハダッド (PT) 2.3%, コロル (PTC) 1.4%, ダヴィラ (PCdoB) 0.9%, ボウロス (PSOL) 0.6%, アモエド (NOVO) 0.6%, メイレレス (MDB) 0.5%, ロシヤ (PRB) 0.4%, マイア (DEM) が 0.2%であった。決選投票ではボルソナロとシルヴァがぶつかった場合のみ引き分け、その他の組み合わせはボルソナロが当選となる。

(4) トラック運転手スト

5月21日、ディーゼル価格の値下げを求めるトラック運転手らが抗議活動を開始し、瞬く間に全国各地に広まった。燃料不足による空の便のキャンセル、給油所の閉鎖、交通機関の麻痺、教育機関の休校、医療品や食料品の欠品や価格高騰などが国民生活を11日間もの長きに亘り圧迫した。政府は一度目の合意が不発に終わるやいなや軍隊を投入する論議を呼ぶ決定を行った。二度目のトラック運転手との合意で大幅な譲歩を行いストライキは終了に向かった。

(5) 労働省の組合登録不正事件

5月30日、連邦警察は、労働省による労働組合の登録を巡り汚職と不正があったとして、「不正登録オペレーション」を発動し、レオナルド・アランテス労働省次官とロジェリオ・アランテス伯農地改革院 (Incra) 部長を含む23人の逮捕令状を執行した。

【外政】

(1) 伯米関係：ペンス米副大統領の訪伯延期

(ア) 5月4日、ペンス副大統領は、5月末乃至7月初めに予定されている米朝首脳会談の準備に集中するため、5月末に予定されていた訪伯を延期した。

(イ) 5月22日、サリバン国務副長官が訪伯し、ガルヴァオン外務大臣代行と会談。両社は、両国民のため更なる経済的繁栄と治安維持に向けた共通の取組への支援を再確認。

(2) コロル上院外交・国防委員長の訪朝

コロル上院外交・国防委員長は、4月末から5月初旬にかけて、北朝鮮を訪問 (Ri Su Yong 最高人民会議外交委員会委員長招聘)。Kim Yong-nam 最高人民会議常任委員会委員長他と会談。

(3) ヌネス外相のアジア歴訪

(ア) ヌネス外務大臣は、5月7日から25日にかけて、シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナム、中国 (北京、上海)、日本、韓国の7か国を訪問。ASEAN 諸国では、首相、外相等のハイレベルと会談し、二国間関係強化・協力等について協議。

(イ) 中国では、15日、ヌネス大臣は北京において王毅外交部長及び鐘山商務部長と会談し、二国間の戦略パートナーシップの強化を確認。ヌネス大臣は、中国の対伯投資拡大が二国間貿易の拡大に繋がる旨発言。21日、ヌネス外務大臣は、上海において、BRICS 新開発銀行 (NDB) のカムアート総裁と会談。NDB 米州地域事務所を本年度中にブラジルに開設することが決定された。

(ウ) 日本では、17日、ヌネス大臣は麻生副総理兼財務大臣、河野外相、石井国交大臣と会談。日伯外相会談では、本年の日本人ブラジル移住110周年の機会も生かし、両国関係を更に強化し

ていくことを確認。北朝鮮問題に関して、ヌネス大臣は、国際社会が一致して圧力を継続することの重要性につき、日本の立場に対する支持を表明した。その他、ヌネス大臣は日伯経済委員会メンバーとも会合した。

(エ) 韓国では、23日、ヌネス大臣は、李洛淵首相と会談。ヌネス大臣は、韓国政府の伯産豚肉輸入再開決定に謝意を表すと共に牛肉にも同様の決定が行われることに期待を示した。李首相は、韓国産梨の輸入解禁に謝意を示し、イチゴの対伯輸出、造船及び鉄道分野に対する投資に関心を有していると述べた。25日、ヌネス大臣及びリマ産業貿易大臣は、韓・メルコスールFTA交渉開始発表に係る会合に出席した。

(4) 中東情勢

5月14日、伯外務省はガザ地区におけるイスラエル軍とパレスチナ人の衝突に関してプレスリリースを発表。当事者双方に対し、穏健化を求めると共に、イスラエルには国際法及び国際人道法を完全に遵守するよう呼びかけた。

(5) ベネズエラ情勢

5月21日、伯外務省は、ベネズエラにおいて5月20日に実施された大統領選挙に関して非難声明を発表。声明では、ベネズエラ政府が自由で、公正で、透明で、民主的な選挙の実現を求める国際社会の度重なる呼びかけに応じなかったことに深い遺憾の意を表明すると共に、同選挙は正統性と信頼性を欠いていたと批判。

3. トピックス

(1) 日・ブラジル外相会談



日本時間 17 日午後 0 時 15 分から約 60 分間、河野太郎外務大臣は東京にて、アロイジオ・ヌネス・ブラジル連邦共和国外務大臣 (Mr. Aloysio Nunes, Minister of Foreign Affairs of the Federative Republic of Brazil) と昼食を交えつつ会談を行ったところ、概要は以下のとおり。

(ア) 冒頭

河野大臣から、日本とブラジルは基本的価値を共有する戦略的グローバルパートナーであり、本年の日本人のブラジル移住 110 周年の機会も生かし、両国関係をさらに強化したい旨述べた。

これに対し、ヌネス大臣から、日本はブラジルにとっての不変のパートナーであり、様々な関心や課題を共有している旨述べた。

(イ) 二国間関係

河野大臣から、ブラジルは約 700 社の日本企業が進出しており、経済関係強化は重要、2016 年の日伯首脳会談の成果である「日伯インフラ協力会合」を活用し、インフラ分野でも二国間の協力を進めていきたい旨述べた。

これに対し、ヌネス大臣から、ブラジル経済は不況から脱して回復基調にあるため、両国政府がさらに協力して、日本企業による投資を増やしていきたい旨述べた。

(ウ) 国際場裡における協力

両大臣は、国連安保理改革、軍縮・核不拡散、気候変動などのグローバルな課題についてもそれぞれ議論を行い、引き続き連携を推進していくことで一致した。また、ヌネス大臣から、特に国連安保理改革などにおける協力の強化と継続が表明された。

(エ) 地域情勢

両大臣は、北朝鮮や中南米を含む地域情勢に関して意見交換を行った。北朝鮮問題について、河野大臣から、国際社会が一致して圧力を継続することが重要である旨発言するとともに、全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な廃棄を含む我が国の基本的な立場を述べ、ヌネス大臣の理解と協力を求めた。これに対し、ヌネス大臣から日本の立場に対する支持が表明された。

(2) 河野外務大臣のサンパウロ訪問

(ア) サンパウロ日系社会との交流

5 月 19 日夜、サンパウロを訪問中の河野太郎外務大臣は、ブラジル日本文化福祉協会を訪問した。

まず、同協会内にある移民史料館を視察した後、若手日系ブラジル人 8 名と約 45 分間の懇談を行った。懇談では、大臣から、日本をルーツとして誇りを持ち、ブラジルに社会に貢献されていることは喜ばしく、日本と日系社会の絆を深めていくためにも、次世代日系社会を率いる皆様の力が不可欠であり、協力を改めてお願いしたい旨述べた。参加者からは、外務省招へい事業による訪日経験について触れつつ、訪日をきっかけとして日系社会におけるボランティア活動に従事するようになった、引き続き日本とブラジルの架け橋としての活動を続けていきたい旨の発言があった。



ブラジル日本移民史料館視察



ブラジル日系団体主催歓迎レセプション






ブラジル日系団体主催歓迎レセプション



若手日系ブラジル人との懇談

(イ) ジャパン・ハウス サンパウロでの講演会

5月20日、サンパウロを訪問中の河野太郎外務大臣は、ジャパン・ハウス サンパウロ (JHSP) を訪問し、建物内の展示を視察した後、我が国の外交政策に関する講演会 (スピーチ ([日本語](#) / [英語](#) / [スペイン語 \(PDF\)](#)  / [ポルトガル語 \(PDF\)](#)  / [動画 \(YouTube\)](#) )) を行った。

同講演会には、ルーベンス・リクペロ JHSP 名誉館長 (元駐米ブラジル大使、元国連貿易開発会議 (UNCTAD) 事務局長) がパネリスト、ブラジル・メディアで著名な国際問題コメンテーターの一人であるマルクス・フレイタス氏 (サンパウロ FAAP 大学教授) がモデレーターとして参加し、河野大臣との間で意見交換を行った。

会場には日曜日の午前中にも関わらず多くの参加者が駆けつけ、ブラジル人有識者、国際関係学を学ぶ学生、ビジネス関係者、日系社会関係者等約 120 名の参加があった。



[参考] ジャパン・ハウス

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策を発信することにより、知日派・親日派の裾野を一層拡大することを目的とした新たな拠点。日本に関する様々な情報がまとめて入手できるワンストップ・サービスを提供するとともに、レストラン、ショップ等を設置し、民間の活力、地方の魅力なども積極的に活用したオールジャパンでの発信を実現する。さらに、専門家の知見を活用しつつ、現地のニーズにきめ細かく対応して現地の人々の共感を呼ぶよう工夫する。平成 29 年 4 月にサンパウロに開館、同年 12 月にロサンゼルスが一部先行開館（ギャラリー及びショップ部分）。本年はロンドン及びロサンゼルスの全館開館を予定。

(ウ) 開拓先没者慰霊碑及び日本館視察

5 月 20 日、河野太郎外務大臣は、サンパウロ市内イビラプエラ公園内の開拓先没者慰霊碑及び日本館を視察した。

開拓先没者慰霊碑においては、ブラジル日本都道府県人会連合会幹部の案内の下、献花を行った。引き続き、ブラジル日本文化福祉協会（文協）幹部の案内の下で、日本館敷地内の日伯修好 100 周年（1995 年）記念碑を視察したほか、すべて日本から持ち込まれた資材で建設された純和風の家屋内を視察した。

視察後に行われた懇談では、文協関係者から、日本館とサンパウロ日系社会を巡る歴史について説明があるとともに、「ブラジル日本人移住 110 周年を控えた本年、河野大臣をお迎えできることは極めて大きな慶事であり、歓迎の意を表したい」旨発言があった。



開拓先没者慰霊碑での献花



開拓先没者慰霊碑での献花



日本館視察



日本館視察

(3) “フィールドミュージアム”構想に関するプレスツアー（在マナウス総領事館）

5月7日及び8日、JICA ブラジル事務所の主催で技術協力プロジェクト「“フィールドミュージアム”構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト」の日本メディアを対象としたプレスツアーがマナウス市にて開催された。



INPA 本部構内の「科学の家」の内観の一つ



開所となった「フィールド・ステーション」の外観の一つ

(ア) 全体概要

【7日】国立アマゾン研究所（INPA）本部視察

マナティー幼生の飼育水槽で授乳模様を視察後、若年から成体のマナティーの飼育水槽を視察。次に隣接する Casa da Ciência（科学の家：いわゆる自然博物館）にて日伯双方による本件プロジェクトに関する説明の後、同館内展示の視察が行われた。

【8日】クイエイラス・フィールドステーション開所式

マナウス市街西端から片道3時間半の船旅（水路で約120km）を経て、「フィールドステーション」（研究者が比較的長く滞在可能な観察拠点）で開所式が行われた（深い森林のただ中にあり現在陸上からのアクセスは皆無）。冒頭、日伯双方のコーディネーターから事業や本件施設についての説明が行われ、続いて下記2（2）と（3）の代表者が挨拶した。次に協力記念プレートの除幕、昼食をはさんで、地元コミュニティに書籍（INPA研究者によるアマゾン特有キノコ類の本）の贈呈を行い、周辺観察や懇談を経て閉会した。

(イ) 参加者

以下、総勢7日は約30名、8日は約80名。また、8日のクイエイラスのステーション開所式では科学技術革新通信省（MCTIC）国際部のナナヒラ特別補佐官他、地元コミュニティの住民も参加した。

(a) メディア：当国駐在の特派員（時事、共同、毎日、日経、読売、TBS）、サンパウロ新聞他当地メディア等9名。

(b) 日本側：斉藤 JICA ブラジル事務所長及び宮本次長、関口在マナウス日本国総領事、山中在ブラジル日本国大使館公使。事業カウンターパート機関である京都大学の山極総長（クイエイラスに先乗りしたため8日のみ）及び幸島教授（日本側コーディネーター）等、一部資金援助をしている（株）伊藤忠商事から猪股中南米支配人兼伊藤忠ブラジル会社長及び猪俣伊藤忠本社サステナビリティ推進室長代行、日系旅行会社（クイックリー・トラベル社及びATS社）等。

(c) 伯側：事業カウンターパート機関の INPA（国立アマゾン研究所）のルイス・フランサ所長（8日のみ）及びヴェラ・ダ・シルヴァ博士（伯側コーディネーター）等 INPA の本件事業関係者。

(ウ) 意義

(a) “フィールドミュージアム”（FM）は動植物をなるべく自然な本来の姿で見られるように創意工夫する、世界でも希少な革新的なコンセプト。研究者の科学的な研究拠点や各保護区等をネットワーク化することから成り立ち、本件で成功すればロールモデルとして他地域での導入も期待できる。本件事業でFMは、①INPA本部が所在し市民に開放された施設（科学の家（自然博物館）、散策可能な保全林（科学の森）、水生哺乳類水槽を含む数種類の動物展示がある）、②マナウス市街の北方遠郊にある観察タワー、③マナウス市街の北西遠郊にあるクイエイラス「フィールドステーション」、等のネットワークから構成される。

(b) また、新概念であるフィールドミュージアムの推進に加え、日本側の先端研究技術（例えば透明度ほぼゼロの水中にて音波探査技術を用いて対象生物個体の運動の様子を解明等）を駆使した共同研究によって、これまで未解明部分の多いアマゾンの生態系（特に水生哺乳類・魚類・熱帯雨林上層部）の理解を進めることも、本件技術協力事業の成果の一つとして期待される。

(c) 本件協力事業は、学術機関、民間企業とブラジル機関が共同でアマゾンの生態系を保全し、地域社会の持続的発展に寄与（住民も参加）するとともに、生物多様性の研究を行う取り組みであり、その成果は世界に発信できる産官学の連携としても期待できる。とりわけ、同事業を通してアマゾンに生息する動植物等生物多様性について専門家のみならず、国内外の一般の市民が認識できるよう、ネットワークを構築する等啓発活動の強化が目標とされているところ今後の展開に注目したい。

4. 大使館からのお知らせ

(1) 文化イベント

端午の節句 - こどもの日の象徴と伝統 (サンパウロ)

日時：2018年5月5日（土）～6月30日（土）

火曜日～金曜日 10：30～19：30

土曜日 9：00～17：00

場所：国際交流基金サンパウロ日本文化センター図書館 - Avenida Paulista, 52 - 3º andar, São Paulo - SP, Brasil

内容：日本では5月5日を「こどもの日」として祝うことから、図書館で端午の節句をテーマとした展示会を実施している。「鎧」、「兜」、「鯉のぼり」などを展示するとともに、端午の節句の伝統的な意味についても紹介している。

URL：http://fjisp.org.br/agenda/biblioteca_dia_dos_meninos/

(2) 外務省 海外安全ホームページ

各国の危険情報や安全対策など、海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点が掲載されている。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報

2017年12月8日付で内容を改訂したので御確認いただきたい。以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっているので、詳細をホームページで確認いただきたい。

- ・ブラジリア連邦区（継続）
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市（継続）
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏（継続）
- ・アマゾナス州大マナウス圏（継続）
- ・パラ州大ベレン圏（継続）
- ・ペルナンブコ州大レシフェ圏（継続）
- ・バイア州大サルバドール圏（継続）
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏（継続）
- ・パラナ州大クリチバ圏（継続）
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市（継続）

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfections_pothazardinfo_259.html

(イ) 安全対策基礎データ

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査や大使館、総領事館の緊急連絡先が掲載されている。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

(ウ) テロ・誘拐情勢

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html